

圭陵会FAXニュース

発行所：岩手医科大学圭陵会
 発行人：石川 育成 編集人：前沢 千早
 連絡先：TEL 019-624-8386 FAX 019-624-8380
 E-mail: info@keiryokai.gr.jp

第34号内容
 ・岩手医大に看護学部
 16年にも開設の方向
 ・看護学部の新設発表
 岩手医大 定員規模を拡大方針

岩手日報H26.6.3

岩手医大に看護学部

16年にも開設の方向

岩手医大(小川彰理事長)は、岩手女子奨学会(沢野桂子理事長)が滝沢市で運営する岩手看護短大の移管を受け、看護学部(4年制)を新設する方向であることが2日分かった。同大では医、歯、薬学部が続く4学部目となり、早ければ2016年にも開設が見込まれる。看護を志す学生が専門性を越えて学び合えるほか、付属病院などでの研修機会が充実し、優秀な人材確保や技術養成が期待される。

関係者によると、岩手医大と同奨学会は移管について既に合意。岩手医大は今後、文部科学省への申請など看護学部の設置に向けた手続きを進めるが、移

行期間は同短大のまま継続するとみられる。岩手医大は07年、薬学部を新設し、大学付属病院などの矢巾町移転計画を進めている。看護学部を新たに備え

ることで医療系総合大としての魅力が高まり、優秀な看護学生の確保や県内定着に弾みがつきそうだ。

短大として開学し、3年制の看護学科と1年制の専攻科(地域看護学、助産学)を持つ。同短大の1学年の定員は看護師60人、保健師20人、助産師15人。

同短大を運営する岩手女子奨学会の初代理事長を務めた故三田俊次郎氏は、岩手医大付属病院の前身、私立岩手病院の創設者でもある。これまでも同短大の看護実習生が同医大で学ぶなど交流を続けてきた。

県によると、県内の看護師養成校は県立大看護学部、岩手看護短

大や専門学校など14施設。13年度定員は計649人に対し660人を確保し、充足率は100%を超えた。一方、若手看護師の県外流出が進み、県医療局が13年度に行った採用試験では初の定員割れとなるなど、県内定着が課題だ。

岩手日報 H26. 6. 4

看護学部の新設発表

岩手 医大 定員規模を拡大方針

岩手医大(小川彰理
 事長)は3日、岩手女
 子奨学会(沢野桂子理
 事長)が滝沢市大金で
 運営する岩手看護短大
 の移管を受け、4年制
 の看護学部を新設する
 と正式に発表した。小
 川理事長は同日の会見
 で新学部について20
 16年度の開設を目指
 し、同短大の現在の定
 員より規模を拡大する
 方針を示した。

盛岡市中央通1丁目
 の創立60周年記念館で
 小川理事長と沢野理事
 長が記者会見した。岩
 手医大は来年3月、文
 部科学省に設置者変
 更、学部新設を申請。
 国の審査後、早ければ

15年度中には法人移管
 が完了し、16年4月に
 医大看護学部の第1期
 生が入学する。
 当面は滝沢市大金で
 運営し、将来的に岩手
 医大の矢巾キャンパス
 に移る予定。当初、短
 大と4年制看護学部の
 学生が重複するため、
 4年制学部への転入措
 置も検討する。
 現在の入学定員は、
 3年制の看護学科が
 60人、1年制の専攻科
 は、保健師を養成する
 地域看護学専攻が20
 人、助産学専攻15人。
 新学部は震災の影響で
 減少した保健師や助
 産師の育成態勢も維持
 し、各定員を増やす方

針。
 4年制看護学部開設
 をめぐっては、専門性
 の垣根を越えて学び、
 連携する「チーム医療」
 の必要性から、両法人
 が約2年間にわたり調
 整を重ねてきた。
 小川理事長は「医療
 専門職がともに医療
 に取り組む環境が整い
 つつある。意味のある
 『結婚』ではないか」
 と強調。岩手女子高看
 護科などの運営を続
 ける同奨学会の沢野桂
 子理事長は「今後も地
 域に貢献する看護師
 養成に努める」と語っ
 た。

圭陵会FAXニュース

圭陵会ホームページよりPDF形式でダウンロード頂けます。
 ■圭陵会ホームページアドレス <http://www.keiryokai.gr.jp>